

H30.1.18 東淀川区区政会議（仮）教育・子育て部会 学習会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時・場所 平成30年1月18日(木)午後7～9時。東淀川区役所3階304会議室

出席者 (仮)教育・子育て部会委員9名

議題1 平成30年度東淀川区運営方針(素案)について

戦略2-1「こどもとおとなが互いに元気になるまち」

戦略の概要、各具体的取組の内容について説明

(A班)

- 過去2年間協議したが、何がどう進んでいるのかほとんど目に見えないという意見が出たが、いや少しずつ形になって進んでいるというのがこのグループの実感。こんにちは赤ちゃん訪問が6ヶ月だったのが1年にするのも、親子にとって大事な期間の延長だ。
- こんにちは赤ちゃん訪問事業の訪問員の方がいて、せっかく知り合ったからもっと訪問したいという意見があったが、原則一回の訪問で、あとは町内で会ったときに声かけするなどの進め方になるとのこと。
- 一人でサロンに行くのは敷居が高い。子育てサロンと訪問が別々に動いているので、連携を取ったほうがいいのではないかと。建物の中に入りづらいこともあるので、できればサロンの人に呼び込みをしていただきたい。通っている人でも声かけして、垣根を低くしてほしい。
- 子ども食堂も増えてきてはいるが、一部の人だけと感じる。社会的に孤立している人が本当に来ているのか。来ない人をどう動かすか。
- キーマンになる人がいればいいが、結局は口コミ・声かけ。人に心を向ける、一声かけるのが温かみのある活動につながるコミュニケーション。

- ・助産師訪問はリスクを分析してこちらから行くが、無理には行けず同意が必要。人間関係をつくりながら慎重に進めている。
- ・各種事業の情報を伝えることが課題。訴求力の高い情報は口コミ。SNSなども、知っている人からの情報の方が伝わる。地域のコアになる人や親しい人から情報をつなげていくのが一番。

(B班)

- 登校登園サポート事業に関して、学校に来られない子は家庭環境や背景などがわからないので、井戸端会議のように少しでも話ができるような場所があればいい。居場所があっても本当に支援が必要な子がなかなか来られないようなので、実際にはこの登校登園サポートが必要。
- 登校登園サポート事業はまだ全地域ではなく、これからどんどん地域とか学校とかと連携して広げていくということなので、地域でサポートしていけたらいい。
- 登校登園サポート事業に関して、区から地域に依頼が来るだろうが地域で専任者を選ぶのは難しいのでは。学校とも連携して、学校からも依頼してもらった方がいい。
- 子育ての悩みについての相談機関を知らない人が多い。まずは、「区役所に行けば、情報入手や相談ができる」となるように、区役所に来やすい・子どもが楽しめる雰囲気づくりが大事。

- ・学校に通えない原因はいろいろあると思う。専門的な対応がいる子もいる。まずはできることから。